

ぼくの名前

見能林小学校 二年

いなむら まひと
稲村 真人

(敬称略)

どうとくの時間にしげちゃんのお話をがくしゅうしました。しげちゃんは、男の子の名前にしていたので、男の子の水色の名ふだがまちがえておかれていたり、かえ歌を作られたりしていやな思いをしていました。だから、じぶんの名前はきらいでした。お母さんにかわいい名前にしてほしいとたのみましたが、こわいかおをして、できないと言われました。そのかわりに、お母さんから名前のりゆうを教えてもらいました。しげちゃんがうまれる前にお兄さんがいたようですが、体がよわくてなくなってしまうそうです。だから、おにいさんの分まで生きてほしいというしみでつけられたそうです。また、「しげる」というかん字のいみには、えいようがいつぱいといういみも入っているようです。

ぼくの名前は、「真人」という名前です。ぼくの名前をつけてくれたのは、お父さんです。お父さんが、きょうだいぜんいんの名前をつけてくれました。ぼくは、生まれたときは、元気いつぱいのうぶ声を上げて生まれてきたそうです。ぼくが生まれてくることを家ぞくのみんなが楽しみにしていました。お姉ちゃんは、うれしすぎてはくしゅをしていたそうです。こんなによるこんでくれて、とてもうれしく思いました。

「真人」という名前のいみは、「うそやまちがいにもどわされず、ほんとうのことを見きわめられる人になってほしい」といういみがこめられています。また、新しいじたいをつくっていける、つよくてかしこい人になってほしいといういみもこめられているそうです。じぶんの名前にこめられたねがいのような人になれるようがんばりたいと思いました。

ぼくは、じぶんの名前が大すきです。このがくしゅうをとおして、お家の人に名前にこめられているねがいやゆらい、生まれたときの家ぞくのようすなどを聞き、もつともつとじぶんの名前が大すきになりました。これからもじぶんの名前を大切にしていきたいです。